

# 新しい時代 新文化運動と哲学

## 四、人類救援と生命の光

前回に続き、人類を救う生命の光は韓国に顕れた勝利者が降らす甘露の光明である事を示した。下記に紹介する伝言は勝利した神から発信する新しい天霊からのみ言葉、'天声神語'である。

**天声神語** : 天靈である聖靈に甦れ

聖書は人間に聖靈に甦れ、復活せよと教えている。その言葉自体の中に元来、人間が神様であったという意味が含まれているのである。聖靈とは何か？ 天靈である聖靈は文字通り天の神様の聖なる心霊である。そこで、人間に対し天の靈に甦れと言っているのだから、人間は神に生まれ変わる可能性を先天的に持っているということになる。

若し、人間の内に神になる可能性が全くないとするれば、人間に対し聖靈に甦れという理由がないからである。人間と神は同質性の存在である。

人間と神が合って一つになるには、同質性の存在だから一つになるのであって、異質性の存在では合って一つになることはできないのである。

水と油は合って一つになれない。異質性の存在なのでいくら合わせようとしても合わないのである。だが、水と水は合って一つになるのだ。清水と泥水はたとえ色は違っても、同質性の存在だから合って一つになるのである。

人間と神は同質性の存在であるだけでなく、人間が元来、神であったのだ。

ところが、本来存在した神の靈は“我”という悪霊である魔鬼の靈獄に虜になっているので、爾ら「復活」せよ、

「神と合って再び一つになれ」と、聖書はいつているのである。これが即ち、神様が人類に遺したみ言葉の目的であり、聖書の目的であるのだ。神が願う意であるので、聖書全般にわたり「聖靈に生まれ変わって復活せよ」、「新人類になれ」、「一つになれ」等々、しばしば記録しているにも拘わらず、聖書を知らない偽先知者達が、まるで自分が聖書の主人公の如く 聖書を教えながら、身体と靈が別だという霊肉分離説を掲げているのである。仮想虚懸論に過ぎない靈魂来世説を聞いて、死後、天国に行き、死後、復活し、死んだ後に永生するという無責任なことを説きながら、いかにも世の中の偽使徒振りをしてるのである。

### 2、天神=人間の光

聖書には「神様は生命なり」と言っており、また、「神様は人々の光なり」と言っている。“この言には命があった。そしてこの命は人の光であった。”(ヨハネによる福音書 1:4)これは、神が人間を離れて別に存在しているのではなく、生きている人の内に居していることを明示しているのだ。従って“人間の靈魂は主なる神様のともしびであり”(箴言 20:27)、“あなたがたは神の聖殿であって、神の御靈が自分のうちに宿っていることを知らないのか”(コリント人への第一の手紙 3:16)と教えている。

**天声神語** : 天靈の光明  
神様は三位一体の法神だから、元来、三氏の神がいたのが三つに分かれたのではなく、同じ一身の法神であつ



変化無常な天から降りる法身の分身(韓国 富川市 素砂区 駅谷 本部勝利祭壇 極楽浄土道場

た。法神の身は限定された身ではなく、全宇宙に充滿している化身であるので、コンクリート壁や鉄壁でも突き通る恐ろしい透過力の強い光の如き應身である。

原子爆弾を投下されたらガンマ線の光が出る。その光は目には見えないが透過力が強く、その光にあたった生命体は死滅する。その強い光線が人間の肉体を突き抜けて生命組織を破壊しイオン化するので、多くの死傷者が出るのである。

勝利した天神の光明はガンマ線より億千万倍もの透過力が強い光であるのだ。だが、この天から降りる光は生命体を透過しながら生命体を生かす役割をするのだ。計り知れない透過力で悪霊を殺し、死亡の要素である罪の物質(毒素物質)を破壊し出し、跡形もなく除去するからである。

ガンマ線は殺人光線であるが、聖なる天神の甘露天光は生命光線であるのだ。そして、聖なる神の光は直進せずあらゆる万物に生命を与えるように曲線で働くのである。

勝利した聖神の光に比べたら、現世で見る光などは億千万分の一にもならない速度の光であり、数億千万分の一を更に、億千万分の一に割り、また割っても三時間半ほど割った程度にしかならないものである。

現在、光の速度が何よりも速いとしているが(1秒に30万kmを走る)、人間の目に見えろと言ふこと自体、その速度に限界があるということである。

世の中の光より計り知れない聖神の光は捕捉されない光であり、この光はプラス(+)マイナス(-)のない中性の光である。原子を分析すれば中性子があり、その中性子から出る光の速度が余りにも速く透過力が強いので、いまの学問水準では捕捉することができないということ、最高科学者たちが認めているところである。

勝利した聖なる神の体は光の体であり、聖神の体は人間の内にある心と同じものである。だが、いま人間が使用している心は“我”という主体霊に属しているので限界があり、その心は狭く働いているのだ。だが、元来、聖霊で

ある天靈の天神の体は限界のない体であり、自由自在に働く体であったので、現在、人間の心もその心を狭く使えば小さく働き、心を広く使えばその中に包み込むことができるのである。

元々、天神の神体は光であるので人間の体中にも神光があつたし、天靈天光が働いているので人体に電気が流れていると、科学者たちも言っているのだ。だから、天神から恵みを受けた人の体は光り輝くが、これは、天神の靈は生命の光であるから輝くのである。この '勝利祭壇' 講壇上立っている勝利者が昔、あるとき私の身は見えず、太陽のような丸い光だけ浮かんでいる時があつた、これは、天の聖なる神の天靈が光として見える超相現象であるのだ。-1986年1月4日の 勝利者の講話から-

### 3、この世の万物はすべて神物質とは何か？

物質の根元は如何に生じたか？ 粒子か、さもなければエネルギーか？

このような問いかけは、人間が化学を通じて到達せんとする最終点にある問題で、有史以来、数多くの人々が長久な歳月にわたり研究に研究を重ねても、未だに明快な解答を得られない最も原初的な質問であるのだ。

科学的に分析すれば、あらゆる物質は原子が集まって物質を形成しているが、その原子(Atom)を分析してみれば、核と中性子を中心に電子が一定の軌道を回っている。

回っていることを生きていることであり、生きていることは生命力があ

るからで、生命力とは神の靈だから生命力になるのである。

もし、その原子が生きていず死んだとすれば、死んだ原子がどうして一定の軌道を速い速度で動き廻ることができようか？死んだとすれば動かずその場に崩壊されてしまうだろう。だから、万物の最小単位である原子一つ一つの中には、生きている神の靈が存在しているのである。

物体が腐っていることは死んだということであり、腐っていないのは生きているからである。物体が堅固に一定の形態を維持していることは生きているからである。生きているということは、その内に天の神が具にいますことである。

そこで、原子の構造を調べてみると、核と中性子を中心に幾つかの電子が一定の軌道を回っているが、それは天の神が自由奔放に働かず、ある制限された領域の中に捕らわれているということである。それは、まるで人間の心の中に天の神が魔鬼の獄に閉じ込められているのと同様で、原子一つ一つからも天の神が自由に動くことができず、魔鬼の靈獄に閉じ込められているのである。

物質自体もまた神であるから、原子の中の魔鬼の靈が神の靈を一定した限界の枠の中に閉じておめていることを如実に見せているのである。

この事実こそ、科学者たちが論じたことのない全く新しい科学であり、この説が理に合致するのみならず、余りにも確実な証拠が次々に現れているのである。\*

次の号に引き続き掲載

Subaru Kan / 新人類文化研究所長

격암유록 新 해설  
수정판 제 12회

## 세론시(世論視)

柿謀人生世謀人死 시모안생세모인사  
一當千千萬 일당천천만만  
人弱當強 一喜一悲 인약당강 일희일비  
興盡悲來 苦盡甘來 흥진비래 고진감래  
人人解冤好時節 인인해원호시절  
永春無窮福樂 영춘무궁복락  
出生入生朴活人 출사입생박활인  
不知歲月何甲子 부지세월하갑자  
年月日時甲子運 연월일시갑자운

감(감람)나무이신 정도령(6도 81궁)을 따르는 사람은 영생의 진리를 깨달아 영생할 것이요 세상(마귀 세상)일을 피하는 사람은 마귀의 밥이 되어 영원히 죽어 지옥에 가리라. 정도령을 따르는 사람들은 일당(一當) 천(千)이요 일당 만(萬)이 되리라. 사람은 약하나 영생의 진리를 깨닫게 되면 응당 강하게 되느니라. 한 번 기쁜 일이 있으면 한 번 슬픈 일이 있는 것이 세상 이치이듯이 흥이 다하면 슬픔이 오는 것이요 고생 끝에 낙이 오는 것과 같이 사람마다 해원하는 좋은 시절이 오리니 영원한 봄날에 영원무궁도록 영생의 복락을 누리게 되리라. 죽음에서 나와 영생으로 들어가는 진리를 가르쳐 주시는 감(람)나무 정도령은 사람을 살리시는 천지공사를 하시니 그 분을 따르고 영생의 진리를 깨닫게 되면 기쁨과 쾌락 속에서 세월이 어떻게 가는지를 모르게 되리라.

# 감(람)나무를 도모하는 자는 영생을 얻고 세상일을 도모하는 자는 죽으리라



날마다 좋은 날(일일시호일=日日是好日)이요 날마다 새로운 날이요 새 출발하는 날이나라.

陰陽合日三十定 음양합일삼십정  
不耕田而食之 불경전어식지  
不拜祭而祭之 불배제이제지  
不麻皮而衣之 불마피이의지  
不埋葬而葬之 불매장이장지  
有形無形神化日 유형무형신화일  
求人兩白求載三豊 구인양백구곡삼풍  
世人不知 세인부지  
可哀可哀心覺知心覺知  
가애가애심각지심각지  
愼之愼之哉 신자신자재

음양이 합하여 하나가 되는 날(무극대도를 완성하는 날) 마귀를 이기신 삼위일체 하나님께서 좌정하시니 밭을 갈지 않아도 먹고, 절하지 않아도 제사지내며, 길잡이를 하지 않아도 옷을 입고, 매장하지 않아도 장례를 지내느니라. 유형(물질) 무형

(마음) 모두가 신으로 화(化)하는 날이 오리라.

사람은 양백에서 구하고 곡식은 삼풍에서 구해야 하는데 세상 사람들은 양백과 삼풍을 모르는구나. 애처롭구나! 애처롭구나! 마음 속 깊이깊이 깨달아 알아야 하느니라. 연행을 삼가고 또 삼가며 매사에 신중을 기하시라.

### 末運論(一) 말운론

嗚呼悲哉聖壽何短 호호비재성수하단  
林出之人怨無心 임출지인원무심  
小頭無足飛火落地 소두무족비화락지  
混沌之世 혼돈지세  
天下聚合此世界 천하취합차세계  
千祖一孫哀嗟呼 천조일손애차호

오호라 슬프도다! 성인(정도령)의 수명이 어찌 이리도 짧은가? 청림의 사람이 죽었도다. 원무심(怨無心)은 죽을 사(死)자

의 피자다. 임(林)은 양목(두 감람나무의 사람)이며 5도 72궁과 6도 81궁 정도령을 말한다.

자세히 말하자면 72궁과 81궁이 81궁에서 합일이 되어 있으므로(실제로는 여인 한 분까지 포함해서 세 분이 합일된 81궁이다.) 6도 81궁 정도령의 죽음을 말한다. 세상 사람과 같은 죽음이 아니고 하나님은 원래 빛이기 때문에 빛으로 돌아가심을 의미한다.

이것을 원시반본(原始返本)이라 한다. 하나님은 생령이요 빛이요 성령이다. 죄인의 눈에는 보이지 않으나 지금도 항상 지금 이 순간 이 자리에(now and here) 내 속에도 앞에도 뒤에도 옆에도 계신다.

소두무족(=천화천화) 즉 하늘에서 불이 내려와서 온 세상이 혼돈스러우리라. 천하의 기운이 모여 합쳐지는 때 이 세계에서 천(千) 조상 중 한 자손만 살게 되는 비운을 맞게 되니 슬프고 슬프도다.

柿謀者生衆謀者死 시모자생중모자사  
隱居密室生活計 은거밀실생활계  
弓弓乙乙避亂國 궁궁을피란국  
隨時大變 수시대변  
彼枝此枝鳥不離枝 피지차지조불리지

감(람)나무(정도령)를 따르는 자는 영생을 얻을 것이요 속세의 무리를 따르는 자는 죽으리라. 소래산과 노고산 사이에 있

는 밀실(密室)에서 무극대도를 완성하시고 세상 사람을 살릴 계획을 세우시니 그 분이 궁궁을을(弓弓乙乙)의 정도령이요 정도령을 만나 영생의 도를 뒤야야 난(亂)을 피할 수 있느니라. 수시로 큰 변란이 일어나도 새처럼 이 가지 저 가지 옮겨 다니지 말고 감(람)나무(정도령)를 떠나지 마라.

龍蛇魔窟 용사마동  
三八柵隔黑霧漲天 삼팔상격 흑무창천  
秋風如落彼克此負 추풍여락 피극차부  
十室混沌四年何生 십실혼돈 사년하생  
兵火往來何日休 병화왕래하일휴  
劫人來詳解數 劫인태상해지  
祭堂彼奪此散億國 제당피탈 차산은거  
四街路上 사가로상

백행하 / 고서연구가  
myunghpark23@naver.com 010-3912-5953

**당신을 영생의 세계로 안내하는 신문**  
성금계좌 : 우체국 103747-02-134421 예금주 : 이승우  
승리신문은 독자님들의 정성어린 성금으로 만들어집니다  
전국 각지에서 성금을 보내주신 분께 감사드립니다

<b>승리신문</b>		1990.3.3 등록번호 다 - 0029
발행인 겸 편집인 김중만		
본지는 구세주(정도령, 미륵불)께서 말씀하신 사람됨이 실제로 죽지않는 원리(영생학)를 누구든지 쉽게 배우고 실천할 수 있도록 소개하여 질병과 죽음이 없는 개벽된 세상을 만들고 진정한 평화의 세계를 구현하는데 기여함을 목적으로 발행됩니다.		
경기도 부천시 소사구 안곡로 205번길 37 우 14679 홈페이지 <a href="http://www.victor.or.kr">www.victor.or.kr</a>		광고 및 구독신청 전화 032) 343-9985 FAX 032) 349-0202
본지는 신문윤리강령 및 그 실천요강을 준수합니다.		